

物

南京附近戰鬥詳報

歩兵第三十三聯隊

南28

0645

其一 紫金山附近ノ戦闘  
 紫金山附近ノ戦闘ニ影響ヲ及ホシタル天候氣象及戦闘地

紫金山ハ南京城ノ東北側ニ位シ山形馬背  
 ナシテ東西ニ走リ其東南端ニ鞍部ヲ隔テ  
 立シ其西南亦鞍部ヲ隔テ天文臺高地ト  
 相對ス而シテ東方稜線ノ巔頂ハ北側ニ面  
 シ懸崖ヲナシ其大部ハ攀登ヲ許サス南麓  
 ハ斜面稍ニ緩ニシテ通過困難ナル樹林ヲ  
 除キ概シテ歩兵ノ攀登至難ナラス  
 第一峰ハ紫金山ノ最高峰ニシテ四周ヲ瞰  
 下シ是ヨリ東北方ニ面シ急ニ低下シタル  
 丘阜公路口方向ニ起伏シテ相連ル  
 敵ハ紫金山一帯ノ高地ヲ重要視シ相當堅

附二

0646

固 = 陣地ヲ構築シ敵軍中最モ優秀ナル教  
導總隊一旅ヲ背幹トスル部隊ヲ重疊ニ配  
備シ頑強ニ我ニ抵抗セリ  
山頂附近ニ一トナカシク配シタル掩蓋  
機關銃座ヲ構築シ同高地ノ西方ニ連ナル  
<sup>△3235</sup>高地ノ東西一帯ノ稜線ハ主トシテ北  
方及南方ニ面シテ既設陣地アリ又稜線上  
東方ニ面シテハ輕易ナル鐵條網ヲ有スル  
急造セル數線ノ陣地ヲ構築スルモ配備上  
ノ弱點ヲ形成セリ  
第一峰ノ東麓及東側閉鎖曲線高地第一峰  
南麓附近ニハ堅固ナルトナカシク及掩蓋機  
關銃座ヲ配シ數線ノ散兵壕アリテ鐵條網  
ヲ圍ラシ又第一峰北麓及岔路口ニ連ナル

(3)

旗爲徹風我候十殆ルヲ天來ハリル  
 =一シアカ極二ン如施文レ後而高  
 於部又リ行メ月トクシ台方シ地  
 テヲ給テ勤テ十日抵抗著紫金高地  
 飯山下氷寒爲良好乃至十三日  
 炊山セ全肌ナリ然レ共夜間山頂西南  
 藁シク欠迄シ將兵ハ露天ニ夜ヲ  
 ヲメテ遠ク黃馬又ハ上五  
 行ヒ水ト共ニ之ヲ山  
 陸續トシテ敵兵増援シテ  
 堅固ニ構築シテ  
 攻撃ニ際シテ  
 第一峰奪取後ハ  
 第一峰尚抵抗シ得  
 第一峰尚抵抗シ得  
 第一峰尚抵抗シ得

0648

南-30

其三

上ニ搬送ス臂カヲ以テ山上ニ運搬スル彈  
 藥ノ補給亦多大ノ困難ヲ感セリ然レトモ  
 將兵ハ不撓不屈是等ノ不利ヲ克服シ一意  
 戦斗ニ邁進スルヲ得タリ  
 兵力編組  
 聯隊ハ第一大隊(一中隊込)及第八中隊ヲ欠キ  
 工兵一小隊並野砲兵第八中隊ヲ屬セラル而  
 シテ第一線部隊ハ輜重監視其他各種任務ニ  
 服シ兵力充實セサルモノ多ク(最初ノ聯隊豫  
 備ニケ中隊ノ如キモ合計四小隊弱ナリキ)且戰  
 鬪間ニ於テモ傷者ノ運搬彈藥補充等地形至  
 難ナル為相當多数ノ兵力ヲ要シ戦斗實施上  
 遺憾ノ莫大ナカラサクキ

0649

其三十月十日ノ行動

一、攻撃部署及其重ナル理由

二、聯隊八十二月九日夜師團命令步兵第三十

三、聯隊第一大隊及第五第八中隊(八右翼

隊トナリ本道(含多北側地區ヨリ攻撃前進

スヘシ、右側支隊トノ戦鬪地境ハ五旗蔣王

廟玄武湖東方五百米南京城東北角ヲ連ル

線(線)上ハ右(含)トスニ依リ紫金山一帯ノ

高地ヲ攻畧スヘキ重大任務ニ服スルノ光

榮(浴)シ將兵ノ志氣愈ニ揚ル

四、聯隊ハ右命令ニ基キ十二月十日午前七時

(天明稍々前)下麒麟門出發第三大隊(三中隊ヲ

前衛トシ上麒麟門西方約四百米附近ヨリ

獅子塚ヲ經テ青塘東北側地區ニ前進シ該

地附近ヲ占領シ攻撃ノ目的ヲ以テ高地

南31

0650

(3)

及紫金山方向ノ敵情地形ヲ偵察セシメ爾  
 餘ノ聯隊主力ハ聯隊本部第九第十中隊第  
 二大隊聯隊砲及連射砲中隊聯隊小行李第  
 二大隊ノ一小隊ノ順序ヲ以テ前衛ニ續行  
 シ午前八時三十分黃家庄附近ニ集結ス、聯  
 隊長ハ青馬東方高地ニ至リ敵情地形ヲ偵  
 察セリ  
 聯隊長ハ全般ノ地形及敵配備ノ概要ヲ判  
 断シテ先ツ主力ヲ以テ高地ヲ攻畧シ續  
 イテ戦果ヲ紫金山稜線ニ沿ヒ西方ニ拡張  
 スルニ決シ午前九時前衛タル第三大隊ヲ  
 シテ既ニ占位シアル青馬村東北側稜線上  
 ニ展開シ攻撃セシムルト共ニ特ニ聯隊砲速  
 射砲中隊ヲシテ密ニ第三大隊ニ協力セシ  
 ム又本隊ニ在リシ第二大隊(三中一小隊欠)ハ

第三大隊ノ右黄馬北側方向ヨリ  
 圖)東側ノ比較的攀登容易ナル地  
 ツ紫金山ノ東北訖ニ向ヒ攻撃シテ  
 隊ニ協力セシメ第九中隊ヲ黄馬南側  
 附近  
 兩第一線大隊ノ中間ヨリ紫金山東  
 角ニ向  
 ヒ攻撃セシム又第十中隊ヲ聯隊豫備  
 トシ  
 第三大隊ノ後方ニ控置セリ  
 聯隊重兵指向選定ノ理由  
 紫金山一帯ノ稜線ハ前述ノ如ク地形  
 上北方ヨリスル攻撃ハ最モ困難トス  
 ル所ニシテ又南方ヨリスル攻撃ハ先  
 ツ本道方面ノ堅固ナル敵陣地ヲ突破  
 後ニ非レハ不可能ナルト左翼隊攻撃  
 期待シ得ス故ニ寧口兵力使用地域狹  
 小ナルモ稜線上ヨ西方ニ向ヒ攻撃ヲ

0652

南32



二 戰 闘 經 過  
 一 兩 第 一 線 大 隊 八 所 命 如 々 攻 撃 準 備 ノ 位  
 置 = ツ キ 第 三 大 隊 八 午 前 九 時 過 攻 撃 前 進  
 行 ハ シ ム 此 間 聯 隊 砲 速 射 砲 中 隊 ノ ト  
 進 歩 セ シ ム ル ヲ 適 當 ト 思 考 セ リ 而 シ  
 テ 之 カ 爲 ニ ハ 速 ニ 奪 取 ス ル コ ト  
 必 要 ナ ル ヲ 以 テ 先 ツ 重 矣 ヲ 指 向  
 シ 爾 後 同 高 地 西 北 側 鞍 部 ヲ 經 テ 紫 金  
 山 ノ 稜 線 = 進 出 シ 尚 重 矣 方 向 ノ 攻 撃  
 = 協 力 シ 且 ツ 高 地 ヲ 紫 金 山 ノ 稜  
 線 = 進 出 ヲ 容 易 ナ ラ シ ム ル 爲 第 二 大  
 隊 ノ 主 力 ヲ 高 地 ノ 東 北 部 = 向 ヒ 攻  
 撃 セ シ メ 又 西 大 隊 ノ 間 隔 著 シ ク 大 ナ  
 ル ヲ 以 テ 中 間 = 第 九 中 隊 ヲ 挿 入 シ 運  
 繋 ヲ 保 持 セ シ メ タ リ

予刃掩蓋銃座ノ有効ナル銃眼射撃ニ依リ  
 第三大隊ノ戰鬥ハ著々進歩シ第一線ハ麓  
 及中腹ノ敵陣地ヲ攻畧シテ漸次山頂ニ攀  
 登ス此ノ時敵ハ後方部隊ノ増援ニヨリ逆  
 襲セシモ我カ第一線ハ銳意突撃ヲ實行シ  
 テ午前十時三十分ハ高地ヲ確實ニ占領シ  
 爾後豫定ノ如ク鞍部ヲ經テ西方ニ戰果ヲ  
 擴張セリ第二大隊ノ第一線ハ此ノ頃紫金  
 山東北部斜面ヲ攀登中ニシテ第九中隊ハ  
 稜線上ニ進出シ第三大隊長ノ指揮下ニ入  
 レリ  
 兩第一線大隊ハ爾後紫金山ノ東部附近ヨ  
 リ第二大隊ヲ第一線第三大隊ヲ第二線ト  
 シテ西方ニ向ヒ攻撃ヲ續行シ殊ニ第一大  
 隊正通ハ敵兵増援シ加フルニ地形断崖ニ

シテ攻撃困難ナリシモ極力第一線ヲ推進  
 シ午後四時<sup>△3時</sup>高地東側瘤續テ午後六時其  
 次キノ瘤ヲ奪取スルヲ得タリ  
 此日午後四時頃第五中隊ハ聯隊ニ復歸シ  
 上五旗附近ニ於テ第二大隊長ノ指揮下ニ  
 入レリ  
 本攻撃ニ於テ聯隊砲及速射砲中隊ハ下  
 麟門附近ヨリ青馬ニ進出スル道嶮難ナ  
 リシタメ分解搬送ニテ各ニ門竝ニ豊富ナ  
 ル彈藥ヲ以テ戦斗ニ参加シ青馬東北方附  
 近ニ陣地ヲ占領シテ密接ニ第三大隊ニ協  
 カシ爾後黃馬附近ニ陣地ヲ変換シテ第九  
 中隊及第二大隊ノ戦斗ニ有効ニ協力スル  
 ヲ得タリ  
 第一線大隊攻撃進捗ニ伴ヒ聯隊砲ハ<sup>△2時</sup>北

(3)

側鞍部ヨリ紫金山麓附近ニ進出シテ主  
 トシテ第三大隊ニ協力シ速射砲八第三大  
 隊ニ追隨シテ山頂ニ陣地ヲ占領シ爾後第  
 二大隊ノ戰鬥ニ協力セリ  
 此ノ日第一大隊八師團豫備ヨリ聯隊ニ復  
 歸ヲ命セラレ午後二時頃青馬東北側ニ於  
 テ聯隊長ノ手裡ニ入レリ是レヨリ先聯隊  
 長ハ敵ノ大部隊右側支隊ニ壓迫セラレ鎮  
 江ノ南京道ニ沿ヒ岔路口方面ニ退却中ナ  
 ルノ報ニ接シ第一大隊ノ主力ヲ以テ先ツ  
 之レヲ殲滅シテ聯隊ノ右側背ヲ安全ナラ  
 シムヘキ企圖ヲ以テ第一大隊到着ト共ニ  
 之ヲ率井テ上五旗ニ到リ有力ナル一部ヲ  
 下五旗ニ分シテ中隊ヲ殘置シ岔路口方面ニ對  
 聯隊ノ右側背ヲ援護セシメ午後七時其

1911~34.

0656

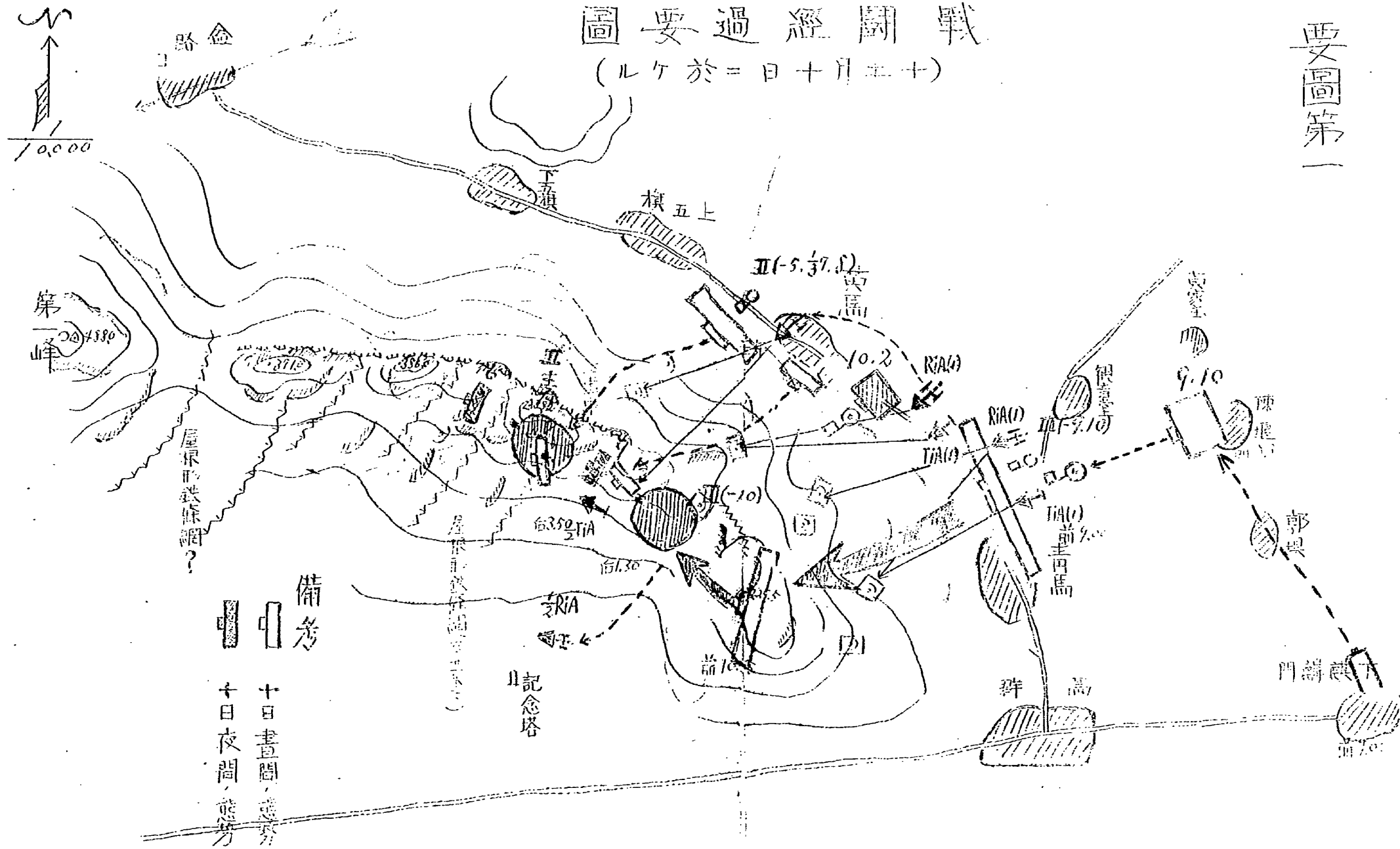
(4) 主力及豫備隊ヲ黃馬及青馬北端附近ニ集  
 結シテ夜ヲ徹シ明早朝ニ於ケル紫金山稜  
 線ヘノ進出ヲ準備セリ  
 聯隊長ハ第一線ノ紫金山東方稜線ヲ奪取  
 セル戦果ヲ擴張シ速ニ高地(第一峰)ヲ奪  
 取スルニ決シ十日午後六時二十五分三  
 三尔命甲第一二八號ヲ下達シ極力前  
 敵ヲ攻撃セシム  
 兩第一線大隊ハ聯隊命令ニ基キ夜間尚攻  
 撃ヲ續行セルモ敵兵頑強ニ抵抗シ且地形  
 ノ峻難ト戰場地域ノ狹隘トハ我戰鬥意ノ  
 如ク進捗セザリキ  
 十日ニ於ケル戰鬥經過ノ概要要圖第一)

0657

戰鬪經過要圖

(十月十日於ル)

第一圖要



三、關連

關連セル隣接部隊  
聯隊ハ紫金山攻撃ノ第一日(十日)ハ隣接部隊

トノ連繫及砲兵ノ協力ハ之ヲ期待スルヲ  
得サリキ配屬セルタル野砲兵第八中隊

モ未夕來着スルニ至ラス全ク聯隊獨効ノ  
攻撃ナリシヲ以テ特ニ聯隊砲其他重火器

効果ヲ發揮スルニ努メタリ  
聯隊ニ德歸セシ第一大隊ノ主力ヲ更ニ右

側支隊ニ轉屬スヘク本日夜木佐木參謀ヨ  
リ電話ニテ交渉アリ其要旨ハ右側支隊兵

カ寡少ナルハ軍司令官宮殿下御懸念アラ  
セラレツ、アリ然レ共紫金山ノ攻畧ハ師

團トシテモ最重要視スル所ニシテ萬難  
ヲ排シテ奪取セサルヘカラス今聯隊ノ狀

況ハ第一大隊主力ヲ右側支隊ニ轉屬可能

團命令ニ於テ實施セラルタリ  
 ナハ幸甚ナラント回答セリ即チ本夜ノ師  
 一(小隊)タルヨ以テ小銃一中隊ヲ殘置セラレ  
 轉屬何等差支ナシ唯同下豫備隊ハ一中隊  
 金山ヲ攻畧スヘシ第一大隊ノ右側支隊ニ  
 第三大隊(各大隊)共欠數アリヨ以テ必ス紫  
 意ノアル所ヲ感謝スルト共ニ即座ニ第ニ  
 場ヲ切付度スル所アリ聯隊長ハ同官ノ  
 參謀ノ電諾ハ言々熱ヲ含ミ且隊長ノ立  
 ノ狀況ニアリヤ意見承リ度ト此ノ木佐木



其四十二月十一日行動

一 攻撃部署

聯隊八十日午後十時(受領午前一時半頃)ノ師  
 團命令ニ基キ依然攻撃ヲ續行シ紫金山第一  
 峰ヲ占領シ續イテ大平門富貴山附近ヨリ南  
 京城ニ突入セシトス而シテ師團命令ニ於テ  
 左翼隊トノ戰鬥地境ハ明孝陵北端明故宮  
 東北端ヲ連ヌル線ニ變更セラレ我力使用地  
 域ハ南麓ニ於テ著シク削減セラレタリ  
 聯隊ハ十一月五日午前二時三十分命令ヲ下達  
 シ依然攻撃ヲ續行シ高地ヲ攻畧シ爾後  
 該線附近ヲ占領シテ隊伍ノ整頓ヲ行ヒ第三  
 大隊(第十中隊迄)ハ現在地附近ニ於テ攻撃ヲ準  
 備シ明拂曉先ツ第一線ヲ以テ概ネ孫總理陵  
 墓南北ノ線ニ進出シ爾後兩第一線大隊八天

1911.37

0661

文臺高地ヲ攻畧シテ大平門富貴山ニ向ヒ前  
 進ヲ準備シテ聯隊砲及速射砲中隊ハ天明後主  
 トシテ第二大隊ノ攻撃ニ一部ヲ以テ第三大  
 隊ノ戦斗ニ協力セシム  
 二 戦闘經過ノ概要  
 第二大隊ハ日没後攻撃ヲ續行スルモ成果  
 意ノ如クナラサルヲ以テ聯隊長ハ明十一  
 日未明迄ニ先ツ高地附近ヲ完全ニ占領  
 セシムヘキヲ命ス、乃子大隊長ハ一部(第六  
 中隊)ヲ以テ十一日未明<sup>△3時</sup>、瘡ヲ夜襲スル  
 = 決シテ其準備ヲ完了シテ予定ノ如ク之ヲ  
 断行ス(地域狹隘ナル爲一隊ヲ使用スル  
 ヲ適當トセリ)然ルニ懸崖ニ依レル敵ハ手  
 榴彈等ヲ以テ頑強ニ抵抗シ且左側背ヨリ約  
 二百名ノ敵逆襲ヲ受ケ死傷續出シ(中隊ノ

0662

死傷約七十名一時攻撃頓挫セシモ中隊長  
 ハ更ニ勇ヲ鼓シテ終ニ陣地ノ一角ヲ占領  
 シ天明ニ至ル茲ニ於テ大隊長ハ天明後第  
 七中隊ヲ増援シテ午前八時五十分完全ニ  
 本窟ヲ占領シ爾後第五中隊(機関銃一小隊  
 宛屬)ヲ以テ戦果ヲ擴張セリ  
 第三大隊ハ左第一線トシテ嶺頂ヨリ南方  
 山腹附近ニ位置シアリシカ地形上敵ノ瞰  
 制ヲ受ケ且追撃砲ノ射撃ヲ蒙リ戦鬪進捗  
 セス第二大隊正面ノ進捗ニ伴ヒ其稍々左  
 翼後ノ山腹ニ進出スルヲ得タリ  
 聯隊長ハ全般ノ爲極力高地ヲ選ニ攻畧  
 スルノ必要ヲ痛感シ更ニ第一線ノ状態ヲ  
 實視スルニ戦力発揮ノ爲第三大隊ヲ第  
 大隊ノ左翼ニ連繫シテ略同線ニ進出スル

九

附38

0663

如ク統制スルノ必要ヲ認メ午後四時三十分命令ヲ歩三三作命甲第百三十一號ヲ以テ第  
 二大隊ヲ稜線(含)ヨリ北側地區第三大隊ヲ  
 同南側地區ヨリ彼線(指)ニ進出シ前面ノ  
 敵陣地ヲ攻撃シ速射砲ヲシテ特ニ第二大  
 隊ニ協力セシメ自ラ高地ニ位置シテ所  
 要ノ指シ行ヒ兩第一線ヲ督勵ス  
 兩第一線大隊ハ銳意攻撃ヲ續行シ爾後更  
 二第一峰ニ對スル攻撃ヲ準備中ナリ  
 重火器配屬砲兵等ノ行動  
 (4) 本日ノ行動ニ於テ各大隊ノ機関銃及大  
 隊砲ハ多大ノ辛苦ヲ冒シテ紫金山上第  
 一線ニ追隨シテ陣地ヲ占領シ能ク其任  
 務ヲ完フセリ  
 (4) 特ニ速射砲中隊長中島中尉八部下ヲ叱

屯激勵シ名狀スヘカラサル地形分障得排除  
 克服シ其一門ヲ紫金山上第一大隊第一  
 線ノ直後ニ陣地ヲ占領シト<sup>1</sup>子力及掩  
 蓋銃座ヲ破壊シテ最モ有効ニ第一大隊  
 ノ攻撃ニ協力シ偉功アリ其部下小隊長  
 岡村少尉ハ紫金山上ニ於テ終ニ壯烈ナ  
 ル戦死ヲ遂ク  
 又聯隊砲中隊八十一日天明後高地西  
 側附近ヨリ第一線ニ協力シ爾後戰鬥ノ  
 進捗ト共ニ紫金山東南麓紀念館附近ニ  
 陣地ヲ占領シテ第一線ニ協力セリ而シ  
 テ同夜敵ノ夜襲ヲ受クルモ自ラ克ク防  
 衛シテ無事ナルヲ得タリ  
 聯隊ニ配屬セラレタル野砲兵第八中隊  
 ハ本十一日夜漸ク聯隊長ノ手裡ニ入り

南1039

0665

師團通信隊ヨリ派  
遣セラレタル隊員  
尉亦聯隊ト師團司  
令部ト間ノ連絡ニ  
遺憾ナキヲ得タリ

シヲ以テ上五旗附近ニ陣地ヲ占領シテ  
右第一線タル第二大隊ニ協力セシム  
昨十日來通信班ノ功績偉大ナルモノア  
リ即聯隊長ハ攻撃開始ニ際シテ青馬東  
北方高地ニ位置シ爾後第一大隊ト共ニ  
上五旗ニ移動シ更ニ黃馬ニ至リ翼早朝  
紫金山ニ登ル即チ通信班ハ此ノ間聯隊  
長ト紫金山上ニ在ル第一線兩大隊トノ  
間嶮峻ナル山岳深谷ヲ通シ終始絶大ナ  
ル艱苦ヲ排除シテ完全ニ連絡ヲ保持シ  
戰鬪指揮ニ些モ遺憾ナキヲ得タリ  
三聯隊ニ關連セル隣接部隊ノ動作  
の聯隊ノ紫金山攻撃ハ意ノ如ク迅速ニ進歩  
セリシト虽モ而モ左右隣接部隊ニ比ス  
レハ著シク西方ニ突進シアルノ態勢ニア

一線大隊ハ之等ニ躑躅スルコトナク一意  
 重火器ノ遠距離射撃ヲ受ケタリ然レ共第  
 隊ノ右側方ハ岔路口西南方高地ノ敵ヨリ  
 近ニ位置セル聯隊砲ハ敵ノ夜襲ヲ受ケテ聯  
 受ケ又十一日夜左後方第九聯隊第一線附  
 ノ夜襲時ニ於テハ左側背ヨリ敵ノ逆襲ヲ  
 蒙リシコトアリ特ニ十一日未明第六中隊  
 脅威スルト共ニ自ラ亦側背ニ對シ射撃ヲ  
 リキ之カ爲兩隣接部隊前面ノ敵ノ側背ヲ  
 師團砲兵及軍砲兵ノ一部ハ師團幕僚ノ配  
 慮ニ依リ本日の攻撃ニ協力スル所アリシ  
 天連絡將校來ラス且聯隊ト師團司令部ヲ  
 介スル砲兵トノ連絡意ノ如クナラス而モ  
 地形ノ關係觀測ノ困難等ハ聯隊前面ノ敵

1940

0667

(3)

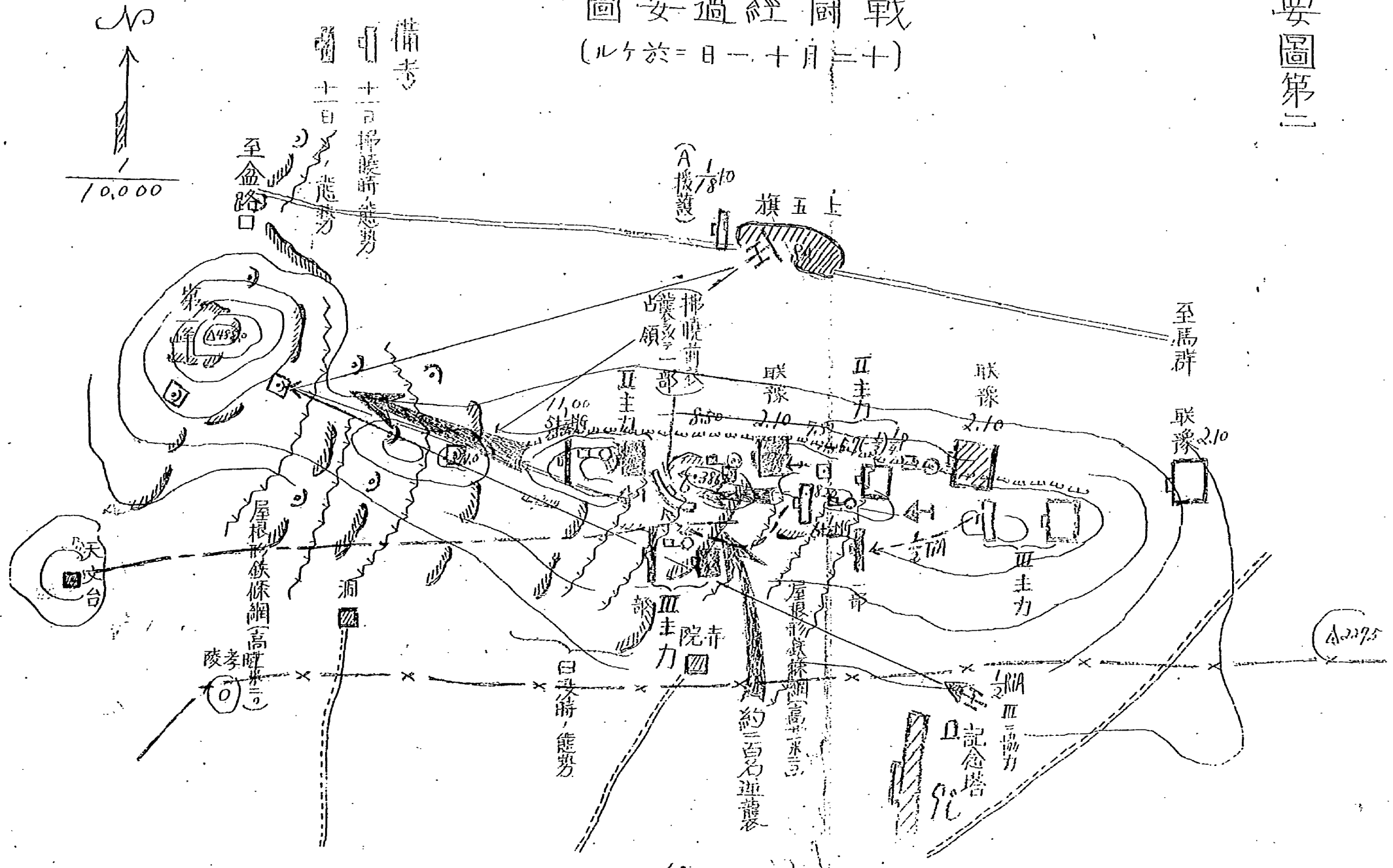
速カニ奪取スハク覺悟セリ  
 氣益々揚リ愈ミ死カヲ盡シテ萬難ヲ排シ  
 意圖ヲ拜シ將兵ハ感激措ク所ヲ知ラス志  
 シテ努力奮闘シアルカ上ミ今又殿下ノ御  
 聯隊ハ既ニ紫金山攻撃ニ在スルヲ光榮ト  
 カナラシムコトヲ御希望アラセラルト  
 攻畧ニ関シ御懸念アラセラレ其占領ノ速  
 軍司令官宮殿下ニ於カセラレテハ紫金小  
 連絡アリ  
 本日師團參謀ヨリ電話ヲ以テ左ノ意味ノ  
 ノ攻撃實施亦聯隊独力ヲ以テ實行セリ  
 二對シ其射擊効果果ヲ發揮スルヲ得ス本日

0668



戰經過要圖  
(此ヶ於=日一十月二十)

要圖第二



1911

0669

其五十二月十二日ノ行動

一、攻撃部署

師團八十二日朝ヨリ砲兵射撃ノ成果ヲ待ナ  
テ第一線歩兵ノ攻撃ヲ開始シ紫金山第一峰  
ヨリ農林場ヲ經テ遺族學校<sup>高地</sup>巨ル敵陣地ヲ  
攻畧シ續イテ南京城ニ突入ヲ企圖シ右翼隊  
タル我聯隊ハ依然前任務ヲ續行スヘク命セ  
ラル  
聯隊八十二日午前〇時四十五分歩三三作命  
甲第一三一號ヲ以テ依然攻撃續行ニ関スル  
命令ヲ下達ス即第二大隊(欠除部隊故ノ如ク依然  
工兵小隊ヲ配屬ス)ハ依然攻撃ヲ續行シ第一  
峰ヲ攻畧シ爾後天文台北部高地ヲ攻撃シテ  
大平門ニ進出セシメ且第一峰攻畧後特ニ北  
方ニ對シ警戒セシム又第三大隊(欠除部隊)如

南42

0670

故ハ前面ノ敵陣地ヲ攻畧シ第一峰南麓高地  
 ヲリ明孝陵北端附近ニ亘ル敵陣地ヲ攻畧シ  
 天文台南部高地ノ敵陣地ヲ攻撃シテ富貴山  
 =進出セシム而シテ兩第一線大隊ノ戰鬥地  
 境ヲ第一峰東側閉鎖曲線高地ノ南麓第一峰  
 南側小閉鎖曲線(三万五千分)天文院ヲ連ヌル  
 線線上ハ尤ニ屬ストシ其第一線ノ攻撃前進ハ  
 砲兵射撃ノ効果ヲ利用シ其時期ハ別命スル  
 如ク規定セリ  
 聯隊砲及速射砲中隊ハ現陣地ニ於テ兩第一  
 線大隊特ニ右大隊ニ協力セシメ又配屬砲兵  
 第八中隊ハ上五旗附近ニ陣地ヲ占領シテ第  
 一峰高地ノ敵陣地ヲ射撃シ右第一線大隊ノ  
 戰鬥ニ協力セシム  
 戰鬥經過ノ概要

0671

聯隊ハ砲兵ノ協カヲ得其力ト相俟テ速ニ  
 第一峰ヨリ攻畧セントシ早朝ヨリ準備スル所  
 アリ之カ爲師團司令部ヲ通シ野砲兵第三大  
 隊ト協定シ射撃ヲ實施セシモ砲兵ノ威力ハ  
 地形並觀測困難ナル爲找陸地前ニ於テ適切  
 ナル効果ヲ擧クルヲ得ス此處ニ於テ第二大  
 隊長ハ砲兵第八中隊ヲ極力セシムルト共ニ  
 速射砲大隊砲機関銃ヲ第一峰東方稜線第一  
 線近ク推進シ密接ニ協力セシメ突撃ヲ敢行  
 セント企圖ス聯隊長ハ<sup>聯隊</sup>豫備隊タル第二中隊  
 ヲ第二大隊長ニ與ヘ突撃ヲ推進セシメント  
 シ自ラ第一線近ク位置シテ之ヲ督勵ス兩第  
 一線大隊ハ敵陣地前ノ障礙物ヲ排除シ午後  
 一時頃第一峰東南麓バヲ<sup>松ノ</sup>敵陣地閉鎖  
 曲線ノ高地ニ突入シ數時ニ亘ル近接戦ヲ

交へテ遂次戦果ヲ擴張ス此間敵モ小銃機関  
 銃ノ盃射手榴彈ノ投擲等ニ依リ執拗ニ抵抗  
 シ又第一峰東北方地區ニ數線ニ陣地ヲ占領  
 シアリ敵兵ハ後退シテ第一峰北側方ヨリ  
 戦闘ニ参加シ又第一峰南側地區ヨリ敵ノ後方  
 部隊續々増加シ戦斗漸次激烈ヲ加フ  
 本戦斗ニ於テ相前後シテ第三機関銃中隊長  
 菅野大尉第五中隊長肱園大尉第九中隊長井  
 原中尉間柄少尉横山少尉駒谷准尉等共ニ負  
 傷シ第九中隊長代理福田少尉三輪少尉乙部  
 准尉等壯烈ナル戦死ヲ遂ケタリ  
 然レ共我カ第一線ノ志氣ハ益々旺盛ニシテ  
 配属砲兵及重火器特ニ午後一時頃上五旗西  
 南方高地ニ陣地ヲ喪換シ聯隊砲ノ盃射ニヨ  
 リ敵ヲ制圧シ終ニ日没前ハラク松ノ高地ヲ

確實ニ占領シテ戰果ヲ擴張シ午後五時半右  
 第一線大隊ノ第七中隊ハ第一峰ニ攀登シ午  
 後六時完全ニ同峰ヲ占領セリ其後第二大隊  
 ハ第一峰西方鞍部ニ進出シ柝曉攻撃ノ目的  
 ヲ以テ天文台高地ノ敵情地形ヲ偵察ス  
 第三大隊ハ其右第一線タル第九中隊ハ前  
 松高地ニ突入シ爾後戰果ヲ擴張セシモ前面  
 ノ敵陣地堅固ナル爲戦斗ノ進捗意ノ如クナ  
 ラサリシヲ以テ聯隊長ハ午後八時第一峰東  
 南麓ニ於テ聯隊命令ヲ下達シ依然前任務ヲ  
 續行スハテ督勵スル所アリ同大隊亦其後積  
 極的ニ邁進シテ夜半ニ於テ戰鬪頓ニ進捗セリ  
 十日ニ於ケル戰鬪經過概要ヲ要要圖第三ノ如シ

19

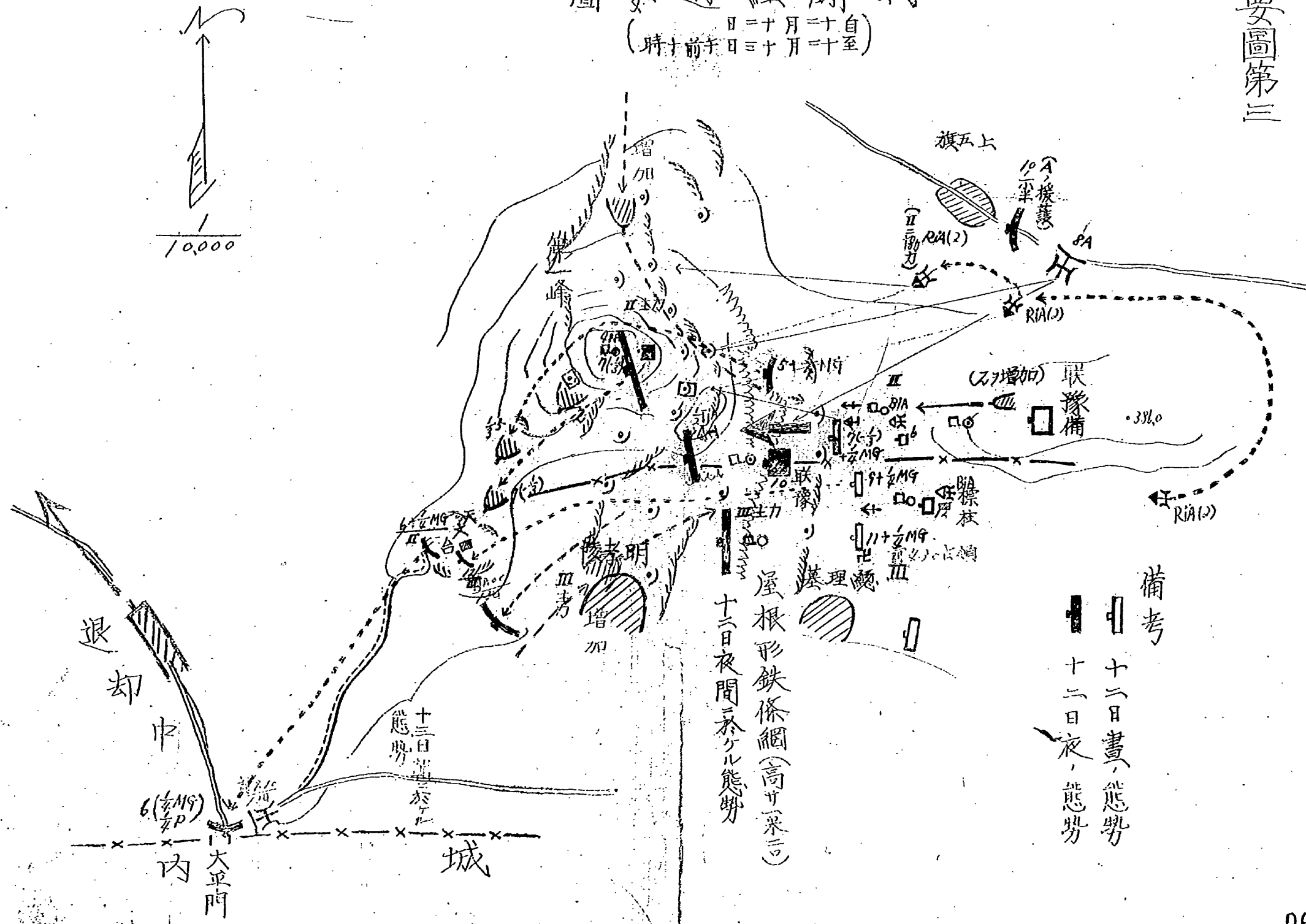
1910.4.4

0674

戰鬪經過要圖

(自十月三十日十時至十月三十一日十時)

要圖第三



備考

十二日晝ノ態勢  
十二日夜ノ態勢

屋根形鉄條網(高サ米三)  
十二日夜間ニ於ケル態勢

0675

南1-65

我 = 廣達セル隣接部隊ノ勤務

此日前日同様聯隊ハ山上 = 位置シ左右兩

隣接部隊トノ連繫ヲ保持スルコトナク獨

山ト西方 = 突進セリ

師團ノ協力砲兵トノ協同モ亦前日 = 等シ

ク諸種ノ關係上期待シ得サリシハ遺憾ナ

リキ

然レ共配屬砲中隊ハ觀測將校ヲ第一線右

大隊長ノ許 = 派遣シ陣地ト電話連絡 = ヲ

リ全ク其意圖ノ如ク効力ヲ發揮シ其彈藥

欸迄セントスルヤ恰モ聯隊砲中隊上五旗

西南側高地 = 進出シテ射撃ヲ開始シ砲兵

中隊ノ射撃効果ヲ繼續シ高地奪取 = 終

始協力スルヲ得タリ

此日聯隊長ハ將兵ノ志氣ヲ振張シ一意第

南ノ46

0676



一峰ノ攻畧ニ邁進シアルモ敵陣地ノ堅固  
 特ニ山上地形ノ狹隘ニ我カ戦闘威カヲ俄  
 ニ發揮スルヲ得ス而モ師團幕僚ヨリハ累  
 次宮殿下ノ御意圖並ニ師團ノ意アル所ヲ  
 電話ヲ以テ通報シ來ル聯隊長ハ轉夕光榮  
 ニ感激シ聯隊面目ニカケテ本日中ニ第一  
 峰ヲ奪取スルニ決シ極力第一線ノ推進ヲ  
 督勵スルト共ニ其突撃ニ依ツテ既ニ獲得  
 シアル戦果ヲ擴張シテ目的ヲ貫徹セんと  
 欲シ午後五時過キ軍旗及聯隊豫備(當時)第十  
 中隊ノ一小隊ノミナリヲ第一線「ハラ」  
 高地ニ推進シテ最後ノ決ヲ喫ヘントシ其  
 前進ヲ命令セリ而シテ自ラ<sup>333</sup>高地ノ西端  
 ニ於テ第一線ノ狀況ヲ注視ス過々午後五  
 時三十分頃第七中隊ノ先<sup>強</sup>續々第一峰ニ

0677

其六十二月十三日ノ行動

一 戰鬥經過ノ概要

攀登シ始メタルヲ以テ同高地ノ占領既ニ  
確實ナルヲ認メ一先ツ軍旗及豫備隊ヲ現  
在位置ニ停止ヲ命シ日没直後バラク松高  
地ニ轉位シ爾後ノ戰鬥ヲ指導セリ  
即チ紫金山第一峰ノ高地ハ聯隊將兵感激裡  
ニ之ヲ占領シ萬歳ノ聲高ク日章旗ヲ夕暗  
高ク翻スヲ得タリ

十一日夕紫金山第一峰ヲ攻畧セシ聯隊ハ追  
撃前進ニ轉移シ十三日午前七時半頃第二第  
三大隊ハ相應呼シテ天文台高地ヲ占領シ同  
九時十分第二大隊ノ一部(第六中隊機関銃一  
小隊工兵一小隊)太平門ヲ占領シテ日章旗ヲ  
城門高ク掲揚セリ

附録

0678

聯隊ハ午前九時三十分一六師作命申第一七  
 一 辨ヲ受領シ一部ヲ以テ太平門ヲ守備セシ  
 メ主力ハ下関方向ニ前進シテ敵ノ退路ヲ遮  
 断スヘキ命ヲ受ケ午前十時半出發第二大隊  
 三 中隊ヲ前衛トシ太平門上和平門下関道  
 ヲ下関ニ向ヒ前進ス而シテ進路ノ兩側卸落  
 ニハ敵敗殘兵無數アリ之ヲ掃蕩シツ、前進  
 ヲ繼續セリ  
 午後三十分前衛ノ先頭下関ニ達シ前面  
 ノ敵情ヲ披索セシ結果揚子江ニハ無數ノ敗  
 殘兵舟筏其他有ユル浮物ヲ利用シ江ヲ覆テ  
 流下シツツアルヲ發見ス即チ聯隊ハ前衛及  
 速射砲ヲ江岸ニ展開シ江上ノ敵ヲ猛射スル  
 事ニ時間殲滅セシ敵ニ十ヲ下ラサルモノト  
 判断ス

0679

爾後聯隊ハ右側支隊ト連絡シ其指揮下ニ入

其

一七レ敵ハ紫金山一帶ヲ相當堅固ニ占領シ

モ防禦ハ重点ハ南北兩方向ニ指向シ東方稜

線ヨリスル我々攻撃ニ對シテハ弱點ヲ成ル

シ急造陣地並ニ配置兵ヲ增強シテハ神備セル

カ如シ又敵ハ迫撃砲ノ外砲兵火力ヲ以テ

稜線ヲ掃射スルニトナリシモ敵ハ小銃特ニ重

擊動作比較的容易ナリシモ豊富ナル手榴彈ヲ

火器ヲ熾ニ集中シ又其ノ襲撃セリ然レモ敵

山上ヨリ投下シテ屢々逆襲セリ然レモ敵

ノ陣地ノ設備拙ニシテ比較的死傷多ク且ソ

小松林等ノ射界ノ清掃不充分ナリシメ死傷

我々戦闘指揮ヲ着シク容易ナラシメ死傷

シク容易ナラシメ死傷

口 支 ナ シ 觀 レ ナ ノ 因 始 師 第 利 手 輕  
 配 及 ル 第 則 タ カ 疎 ハ 意 團 一 ナ 榴 減  
 屬 ヒ 效 一 將 ル リ 通 歩 ノ 如 幕 線 影 不 ス  
 砲 中 果 線 校 砲 シ 不 砲 如 僚 對 響 足 ル  
 兵 支 フ 隊 シ 兵 ニ 可 兩 ク ヨ 對 ス ラ セ 得  
 機 ノ 等 發 揮 シ 意 シ 派 直 ハ 砲 兵 タ 第 只  
 會 如 ク タ 圖 ノ 電 接 如 シ 直 ト 置 サ 慮 ア リ 協 同 一 線 上 歩 兵 斗 於  
 及 ヒ 特 リ 本 如 ク 射 以 大 隊 長 ノ 屬 セ ラ 設 備 思 原 終 ハ 不  
 兵 力 ノ 戰 闘 形 態 於 テ ハ 寧 シ  
 今 一 層 推 獎 シ

0681

且ツ砲兵陣地占領上ノ觀念ヲ根本的線一  
 掃シテ小銃火ヲ意トスルコトナク第一線如  
 兵ト同線ニ位置シテ適切ニ協同セシムル陣地  
 ノ攻撃ニ於テ然リトスリ終始シ將兵ノ士氣極  
 本戰闘ハ感激裡ニ終始シ將兵ノ士氣極  
 三 旺盛ナリキ聯隊ハ紫金山攻撃ヲ命セラレテ  
 ルヲ以テ既ニ榮感シアリシノミナラス  
 適時師團幕僚ヨリ殿下ノ御意圖ノ存スル所  
 ヲ傳達セラル更ニ感激ノ所ヲ知ラサス尚幕  
 僚ハ師團長ノ意圖ニ基キ聯隊ノ活動ヲ容易  
 ナシムル如ク懇切ニ所有援助ヲ施サレタ  
 リ即チ將兵ハ聯隊ノ面目ニカケテ如何ナル難  
 事ニ遭遇スルモ一刻モ速ニ之レヲ攻略スヘ  
 キヲ決意シ邁進セリ豫備隊ニ在リシ中隊長

附49

0682

一 隊 領 十 隊 三 撤 連 黒 送 ノ サ ニ ラ ノ  
 峰 長 シ 軍 内 晝 箒 絡 裡 シ 企 ル 於 ル 如  
 ヲ ノ 旗 戦 カ 夜 モ ヲ 懸 テ 及 モ ケ ヘ キ  
 攻 攻 力 部 二 亦 完 崖 第 シ ノ ル キ 攻  
 略 撃 ヲ 隊 亘 極 フ 深 一 得 ア 重 ヲ 撃  
 セ 指 揮 發 ノ リ メ シ 谷 線 サ リ 傷 熱 開  
 シ 導 ケ 揮 シ 協 極 テ 山 ノ 間 協 努 速 兵 望 始  
 ナ 尚 東 シ 同 力 圓 上 間 協 力 射 中 シ 直  
 ラ 巧 天 終 ハ 攻 滑 ヘ 保 力 カ 砲 二 テ 後  
 ン 妙 ヲ 二 極 × ヲ 擊 二 實 彈 二 通 以 他 後 マ 十  
 二 シ ス 感 テ 續 セ 施 藥 ノ 努 信 テ 重 送 サ 二  
 軍 テ ル 裡 順 行 セ ラ 神 シ 後 ハ レ 器 ノ 第  
 全 一 得 第 二 リ 而 第 一 食 部 夜 ノ 山 上 キ 一  
 般 層 迅 タ 一 峰 テ シ 遺 テ 線 ノ 間 ノ 暗 搬 力 線  
 二 迅 速 二 只 占 憾 聯 ハ 運 ノ 暗 搬 力 線  
 果 二 第 聯 占 憾 聯 ハ 運 ノ 暗 搬 力 線

齋  
ス  
所  
大  
ニ  
シ  
テ  
上  
司  
ノ  
意  
圖  
ニ  
合  
セ  
シ  
所  
ア  
ル

南・50

0684



戰 闘 詳 報

附 表

至昭和十二年十月十四日 步兵第三十三聯隊死傷表

新隊 區 分	戰闘 参加 人員	死	傷	生 死 不 明	聯隊本部	第二大隊	第三大隊	聯隊砲中隊	運射砲中隊	總計	本表ノ外輕傷ニシテ尚隊中ニ在ル者			
											將校	准士官	馬匹	頭
將校	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
准士官	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
馬匹	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
頭	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
將校	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
准士官	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
馬匹	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
頭	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
將校	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
准士官	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
馬匹	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
頭	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
將校	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
准士官	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
馬匹	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
頭	11	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

南~5]

0685

251

總計	速射砲中隊	聯隊砲中隊	第三大隊	第二大隊	隊		種類	種類
					號	區分		
470.51		513	22243	17193	銃	小	彈	消
24.90			1680	810	銃	機		
348			248	105	筒	擲重		
287			275	13	彈	榴手		
125			110	25	彈	榴砲大		
193		152	541		銃	拳		
45	45				彈	甲微		
170	170				彈	砲射速		
227		227			彈	榴砲射		
/		/			機	速測	武	損
/		/			砲	式三九		
/		/			車	藥彈		
2			2	/	銃	小		
2			/	/	銃	拳		
3			/		劍	銃		
5			5		盒	前		
5			5		差	劍		
/			/		筒	擲重		
/			/		鏡	眼雙式三九		
/			/		視	前		
/			/		桿	提		
2			2		匙	円		

自昭和十二年十一月十四日  
至昭和十二年十一月十四日

戰闘詳報

第二號附表

步兵第三十三聯隊武器彈藥損耗表

戰鬪詳報

第三號

附表

自昭和十二年十二月十日  
至昭和十二年十二月十四日

步兵第三十三聯隊鹵獲表

種類	區分	員分	數	備考
俘虜	將	校	14	
	准下	士官	3,082	
	馬	正	53	
戰利品	小銃		1,440	一、俘虜ハ處断ス
	輕機銃		22	二、兵器ハ集積セシテ運搬シ得ヌ
	重機銃		14	
	銃劍		1,030	
	五十榴彈砲		1	
	要塞輕砲		2	
	高射砲		1	
	高射機銃		1	
	拳銃		5	
	速射砲		3	
	山砲		2	
	輕砲		2	
	迫撃砲		6	
	迫撃砲脚		4	
	五十榴彈砲		10	
	測遠器		3	
	通信機		4	
	青龍刀		2	
	自衛劔		4	
器具		659		
小銃	實包		197,630	
機關銃	實包		139,020	
輕機銃	實包		51,530	
手榴彈			8,515	
迫撃砲榴彈			150	
戰車砲	實包		408	
高射砲	彈		50,300	

三、敵ノ遺棄死體

備考 十二月十三日、今ハ處決セシ敗殘兵ヲ含ム

區分	月日	死體(概數)
	十二月十日	二二〇
	十一日	三七〇
	十二日	七四〇
	十三日	五五〇
	以上四日計	六八三〇

南京附近戦闘参加將校人名表

部隊		官		氏		名	
部隊本部	大佐 野田謙吾 少尉 平井秋生 准尉 長岡辻松	少佐 大島藤吉 少尉 松岡久郎 中尉 日高實幸	少尉 野田謙吾 少尉 大島藤吉 少尉 松岡久郎 中尉 日高實幸	少尉 野田謙吾 少尉 大島藤吉 少尉 松岡久郎 中尉 日高實幸	少尉 野田謙吾 少尉 大島藤吉 少尉 松岡久郎 中尉 日高實幸	少尉 野田謙吾 少尉 大島藤吉 少尉 松岡久郎 中尉 日高實幸	少尉 野田謙吾 少尉 大島藤吉 少尉 松岡久郎 中尉 日高實幸
第二大隊	少佐 三浦俊雄 少尉 長谷川芳郎 少尉 奥野安次 少尉 横山孝二 少尉 河村可夫 少尉 伍島一雄 少尉 永峯廣信	少尉 西小良之助 少尉 久志本新太郎 少尉 永岡了 少尉 菅瀬正重 少尉 伊藤源五郎 少尉 三輪英雄	少尉 西小良之助 少尉 久志本新太郎 少尉 永岡了 少尉 菅瀬正重 少尉 伊藤源五郎 少尉 三輪英雄	少尉 西小良之助 少尉 久志本新太郎 少尉 永岡了 少尉 菅瀬正重 少尉 伊藤源五郎 少尉 三輪英雄	少尉 西小良之助 少尉 久志本新太郎 少尉 永岡了 少尉 菅瀬正重 少尉 伊藤源五郎 少尉 三輪英雄	少尉 西小良之助 少尉 久志本新太郎 少尉 永岡了 少尉 菅瀬正重 少尉 伊藤源五郎 少尉 三輪英雄	少尉 西小良之助 少尉 久志本新太郎 少尉 永岡了 少尉 菅瀬正重 少尉 伊藤源五郎 少尉 三輪英雄
第三大隊	少尉 上田孝 少尉 安藤元 少尉 間柄馨 少尉 野々正己 少尉 中岡正治	少尉 堤千里 少尉 宮崎保民 少尉 福田寅藏 少尉 久我豊藏 少尉 菅野淳	少尉 堤千里 少尉 宮崎保民 少尉 福田寅藏 少尉 久我豊藏 少尉 菅野淳	少尉 堤千里 少尉 宮崎保民 少尉 福田寅藏 少尉 久我豊藏 少尉 菅野淳	少尉 堤千里 少尉 宮崎保民 少尉 福田寅藏 少尉 久我豊藏 少尉 菅野淳	少尉 堤千里 少尉 宮崎保民 少尉 福田寅藏 少尉 久我豊藏 少尉 菅野淳	少尉 堤千里 少尉 宮崎保民 少尉 福田寅藏 少尉 久我豊藏 少尉 菅野淳
聯隊砲中隊	大尉 安田治	少尉 世古義郎	少尉 世古義郎	少尉 世古義郎	少尉 世古義郎	少尉 世古義郎	少尉 世古義郎
速射砲中隊	中尉 中島純雄	少尉 岡村正雄	少尉 岡村正雄	少尉 岡村正雄	少尉 岡村正雄	少尉 岡村正雄	少尉 岡村正雄

0688

南54